



**Kodak Color Control Patches**

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

**Kodak Gray Scale**

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

**C** **Y** **M**

© Kodak 2007 TM Kodak

Handwritten text in cursive script, likely a title or author's name, written on a yellowish paper label affixed to the dark brown, cracked leather cover of an antique book.



松花堂

筆花堂

東都

筆花堂藏板

六人女子等の江有大法とを

これ松花堂蔵板

東春

新後堂藏板

かゝるはまのには有る大徳とをまこと  
これ松花をさる翁のまを好むとを  
行しすのにおまをまをたしむ道  
うたをまをさる友をまをたしむ  
まをまをくしすをまをたしむ  
まをまをのまをたしむをまを  
まをまをたしむをまをたしむ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and is arranged in approximately 10 horizontal lines. The script is highly stylized and difficult to decipher, but appears to be a form of historical Japanese or Chinese calligraphy. The lines are roughly parallel and fill most of the page area.



おはたけのたけのこをうまうま

にうまうまをうまうまにうま

うまうまをうまうまにうま

うまうまをうまうまにうま

貞永女官の跡生留

寛永戊寅の跡世傳  
和當おのしちのいよけ  
ふまふしとくまふしとく  
ふのふふふふふふふ  
ぢり  
あふおふふのふふふふ  
あふふふふふふふふ

晴くくく和当願法をるん

去日晴遊苑正用鞋者楚

地波徘徊曉風吹入云々

三笠山願書一推

今迄くくくくくく

ほあつては雲が北を看すて

くくくくくくくくくく

又巻方の付と流るくくくく

うきうきおのゝこゝろをいふ

又もさるの社とてはうきうき  
けり

春の山社とてはうきうき

もどろいふの花のうきうき

うきうきのうきうき

うきうき歌

うきうきをいふ、顔はうきうき

北河陽雲白樓一樹竹風  
京二月書遺二日書

こころみわつこころみわつ

いかにのちまわつこころみわつ

此のつふとこころみわつ  
けいよふとこころみわつ  
つわくつとこころみわつ

つわくつとこころみわつ



~~~~~  
示以

浮雲流水身不立波在風中  
高臺日下胡蝶思吟歌  
可花門中一入又出

あやうきさうさうわうわう

いんあうあ

いんあうあ

あうあうあうあ

世に於ては

目

あつたつれく

よもやま

九〇

片らんち

成り

遊のれも

千草くくたきもや芳気散る

わっさ

和尙

晨出南都河原傳教鳥道

業平痕寄人相付道次よ

疲杖互平月籠猿

肉山不<sub>レ</sub><sub>レ</sub>危傳興<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>羽のみ<sub>レ</sub>花

沙弥多<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>永久<sub>レ</sub>年中<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>事



ふんかくの... 法の... へ

和書頌

永久多言... 成用甚亮

恵以高名... 肉止... 和國... 照中言

今日... 表... 未... 鏡... 一... 輝

帝... 留... 社... 少...

管... 後... 為... 事... 桃... 尾... 隣... 法... 香

帝留社々々

管後野事桃尾隣注香

山名上天力神帝留松下布留

冠海所磨名松及世松

之法之飛

花有々女にらむと子に松と松と

いふよるいふよる松と松とあふふ

之瑞々々々初鳥

途踏者行難險峻高昔  
日厚海之岩之端山之峰  
臨月雲氣移獨一樹收

和 吉くくくくく

かゝる人 刀を差し死  
しゆふふふふふふ  
わゝの木乃 移校

又 流のしるふ

つねに木乃社校

又此法のつねに

多子極武のつねに

つねに

言のつねに

はく和る

之を泊瀬者乃幸凡社校

く凡外松町乃凡社校

親音のまゝに記しりて

白毫の親音のまゝに記しりて

を記しりて

を記しりて

十日

泊瀬のまゝに記しりて

を記しりて

を記しりて



初也三月終生藏於克所為  
之遊來遊之我恨之凡

午つゝ

於心ふまはしけり

のやまはるるれ

さしつゝあ

讀王雲ふりて新為

身ふりて心はるる

藏王堂より新島

身ふくしく心はゆるく

この世は乃露の世

阿彌陀の光を

あきらむと涙を流す

とらぬては道のたもと

うらやまは乃ちよの世

なる阿彌陀の光





又書心

今よりわづらひのこころ

花之れ雲の山路

きくくくわん

未書

靈山ふと遠く家かく古

く先物樹木まき家

いふ風自意一枝花

其先指四樹本為一家

其先指四樹本為一家

十三日

後龍湖天室在沙洲廟

水者楊馬一移石

竹竹亦竹後者

御廟の善表の碑

つた移石



清雲をこぼるるりり

十二日

羊の野をたしゆく為城をたす

さちあまそくすかあまそく

さちあまそくすかあまそく

かちあまそくすかあまそく

花のうらみあまのうら

和尙頌



うんていふて平あくるは  
うやーくせくは為業  
死を流るはくしーし  
うりしれふち碩

三月五日十時おき道  
やーまの、うき業、まみ教  
あかあま雨催徳作中



予武蔵守の沙戒師也  
しんかかすの孔くゆ信せ  
きんぎん又の依是之  
かのくまのたきせり  
しーのまきそあはる  
いふまきしる  
孫受主師予武蔵守唐





其山花已上  
月增日難  
年之朝  
來風  
京世  
年

寬政五年癸丑正月

井清風彫

寬政五年癸丑正月

井清鳳彫

